



「神様見てるよ」

10月になりました。旧暦では、10月を「神無月」とよびます。10月は、日本中の神様が島根県の出雲大社に集まって話し合うそうです。今年は10月22日に日本中の神様が出雲大社に集まるそうです。ですので、島根県以外は日本中の神様が留守になるわけです。それで「神無月」と呼んだのです。ちなみに、島根県では「神有月」と言います。

出雲大社の神様は「大国主命（大黒様）」です。日本を治めて、日本を豊かにしてくれた神様です。島根県の隠岐の島から島根県に渡ろうとしたウサギが鯨に「お前の一族はどのくらいの鯨がいるのかな？ウサギとどちらが多いのか勝負しよう」と投げかけます。鯨たちはたくさん集まって、隠岐の島から島根県まで一列に並んで「こんなにいるんだよ」とウサギに伝えます。ウサギは「数を数える」と宣言して、鯨の背中をぴょんぴょんと数えながら渡っていきました。最後の鯨の背中を渡るときに「海を渡るためにお前たちをだまして並ばせたのさ」とウサギは言いました。腹を立てた最後の鯨がウサギの背中に襲いかかり、毛をむしってしまいました。背中痛みで鳴いているウサギを八十神が通りかかり、「海水で洗って背中を太陽に当てれば良くなるよ。」と悪いアドバイスをします。ウサギは海水で傷ついた背中を洗ったのでたまりません。「痛い、痛い、助けて」と転げ回ります。それを見た大国主命が真水で洗って、がまの穂で痛みを取り除いてくれました。ウサギは鯨を欺いたことを反省し、大国主命の優しさに感謝しました。有名な「因幡の白ウサギ」の話です。

神無月です。図書室で神話の話を読んでもおもしろいと思います。ちなみに、神無月ですが城山中の掃除中は神様がいて見えています。「神様見てるよ！」というかけ声は神無月でも城山中学校では響きます。